

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 144-0041

住 所 東京都大田区羽田空港3-2-8

氏 名 株式会社ANAケータリングサービス

代表取締役社長 石田 洋平

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社ANAケータリングサービス		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケータリング棟		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	機内食製造、航空機への搭降載、機内用品の洗浄・管理業務		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		2,421 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2021 年度 ~ 2023 年度 (報告年度 2022 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の環境負荷低減の取組については、下記URLに掲載 https://www.google.com/url?q=https://www.anac.co.jp/guide/index.html&sa=D&source=hangouts&ust=1595051957332000&usg=AFQjCNHKna-gwI--CXrkCcQ1q5q1d3kPWg

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 3,459 (調) 3,391	(実) 3,660 (調) 3,636	(実) 4,364 (調) 4,358	(実) % (調) %	(実) 5,564 (調) %
削減率		(実) -5.8 % (調) -7.2 %	(実) -26.2 % (調) -28.5 %	(実) % (調) %	(実) -60.9 % (調) %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

	生産量			原単位等の単位	t-CO2/千食
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(年度)	
排出量原単位等の値	4.581	7.204	1.341		1.025
活動量の値	755	508	3,254		-
排出量原単位等の削減率		-57.3 %	70.7 %	%	77.6 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	2021年度は原単位の算出に関わる生産食数がコロナ禍での影響を大きく減少し受け前年比67.2%となっており、原単位も基準年度比で57.3%と悪化している。消費エネルギーは生産食数と連動しない為、生産食数減少に伴いエネルギー使用量抑制にも努めたが、結果的に原単位は悪化した。2年度については照明器具LED化も検討されている為、更なる消費エネルギー抑制に努め、原単位数値良化に取り組む。
第2年度	2022年度は原単位の算出に関わる生産食数がコロナ禍での影響を大きく減少していた状況から、増産へ転じた結果、前年比640.6%となっており、原単位も基準年度比で70.7%と良化している。生産が高まった一方で、中には工場内照明LED化の実施も進み、消費エネルギー抑制に努め、原単位数値良化繋げた。
第3年度	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①現在構築されている環境マネジメントシステム(ISO14001)の中で設定している目標値に従い、エネルギー管理を行う。</p> <p>②主要設備について作成している管理標準を必要に応じ見直すとともに、これに基づく運転・保守管理を徹底する。</p> <p>③設備毎のエネルギー使用量を月次で取り纏め、社内で情報を共有して分析し、節約に繋げる。</p> <p>④LED照明導入実施</p>
<p>第1年度</p>	<p>エネルギーを多く使用する空調や生産機器類の初期設定(デフォルト)の見直しを行い、使い方の中で過剰なエネルギーの使用に繋がっていないか点検し、電力、蒸気、冷水を中心に削減へ取組んだ。消費電力削減については、冷凍冷蔵庫室外機に純水噴霧装置を取り付けることで熱効率を上げ負荷電力抑制を実施した。、また、計画におけるLED照明導入に向けて検討進め、次年度中に実施する計画で進んでいる。</p>
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ LED化工事の実施 ・ 厨房機器更新の際、省エネ機器の選定 ・ 洗浄機給湯温度適正化の検討 ・
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	○社内で構築している環境マネジメントシステム(ISO14001認証)に基づき、環境負荷低減を目指す活動を継続。
第1年度	ISO活動における目標は、『エネルギー使用に係る原単位を→1%以上改善する』として、活動を継続している。
第2年度	ISO活動における目標は、『エネルギー使用に係る原単位を→1%以上改善する』として、活動を継続している。 工場内照明全灯LED化実施を進めた。
第3年度	

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	3,459 t-CO ₂	3,660 t-CO ₂	4,364 t-CO ₂	t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	1,899 KL	2,037 KL	2,421 KL	KL
事業所の数	1	1	1	

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
川崎工場	川崎市川崎区殿町3-26-1 ANA川崎ケータリング棟	3,459	3,660	4,364	

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度